

2024年度国際津波防災学会総会
日本大学工学部駿河台校舎1号館2階会議室
2024年11月5日 15:40-16:00

1年間の活動報告と ぼうさいこくたい2024参加報告

森田章一 轡田邦夫
（「手引き」制作分科会）

今日のお話し

◎1年間の活動報告

「手引き」制作分科会の活動

手引き制作にかかわる懸案事項とその解決

◎ぼうさいこくたい**2024** in 熊本 参加報告

- ・「ぼうさいこくたい」とは
- ・多数の出展形式紹介と今回の出展
- ・今回の分科会出展の成果

1. 1年間の活動記録

2023年11月13日に第1回「手引き」制作分科会（分科会通算第24回会合）

2024年1月15日に第2回「手引き」制作分科会（分科会通算第25回会合）

同年1月26日に「組織」のページに会則を掲載しました。

同年2月22日に第3回「手引き」制作分科会（分科会通算第26回会合）

同年3月29日に第4回「手引き」制作分科会（分科会通算第27回会合）

同年4月25日に第5回「手引き」制作分科会（分科会通算第28回会合）

同年6月27日に第6回「手引き」制作分科会（分科会通算第29回会合）

同年7月25日に第7回「手引き」制作分科会（分科会通算第30回会合）

同年9月13日に第8回「手引き」制作分科会（分科会通算第31回会合）

同年10月19～20日にぼうさいこくたい2024 in 熊本に参加

各分科会では、手引きの目次案の論議、会則制定、クラウドファンディングの進め方検討、ぼうさいこくたい対応の諸議題について意見交換・論議が進められた。

2. 会則制定の背景

- 「手引き」制作のためには、資金の裏付けが必要。
- 会員から、会費を徴収する事と決定。
- 新規会員を募る場合も、現在の立ち位置である会則なしの「任意団体」では、信頼性に乏しい。
- クラウドファンディングで寄付を募る際、会則もない団体では、信頼性に問題が生じる。 ---寄付が集まらない可能性あり---
- 会則を定め、入会・退会のルールや会費を明確にする必要が生じた。

⇒会則制定 HPに掲載。(1月)

- 更に、大口の寄付を頂く場合には、「法人格」の団体であれば、寄付者が寄付控除を申告出来るため、寄付を募り易い。

⇒将来、「法人化」に取り組む。

3. 「地区住民による津波防災対策計画立案のための手引き」制作分科会 会則

抜粋版

(目的)

第3条 本会は、津波防災対策に関わる「地区住民による津波防災対策計画立案のための手引き」(以下、「手引き」と呼ぶ)を制作する活動を行う事によって、地区住民が本会の成果物を参考にして、その地区の実情に合わせた津波防災対策計画を立案する事に寄与する事を目的とする。

(会員)

第5条 本会の会員は以下の2種類とする。

- (1) 正会員:積極的に分科会の活動に参画する。
- (2) 賛助会員:分科会の活動を支援する。

(会費)

第7条 会員は、以下に定める会費を納入しなければならない。

- (1) 正会員 5,000円/年
- (2) 賛助会員 2,500円/年

会費の納入は、別に定める「手引き制作分科会口座情報」に則り、新年度1ヶ月以内に納入する。

(役員)

第9条 本会に次の役員を置く。

- (1) 幹事 2名
- (2) 相談役 1名
- (3) 世話役 若干名
- (4) 会計 1名
- (5) 監査役 1名

2 役員は、総会において会員の互選により選出する。

3 役員の任期は2年とする。但し再選を妨げない。

附則

1 この会則は、2023年11月1日から施行する。

組織構成

幹事：森田章一、轡田邦夫

世話役：市川洋、濱田英外

相談役：増田光一

登録会員数(2023年9月22日現在) 15名

4. クラウドファンディング企画書（案）

抜粋版



1. プロジェクト名

地区住民による津波防災対策計画の立案をお手伝いする「手引き」の制作

2. 自己紹介

国際津波防災学会（2017年11月設立）に設けられた「地区住民による津波防災対策計画立案のための手引き」制作分科会（略称：「手引き」制作分科会）です。

私たちは、4年間の議論を経て取りまとめた制作方針を基に、「地区住民による津波防災対策計画立案のための手引き」を2025年12月までに完成することを目指しています。 以下略

3. プロジェクトの内容

- ・目標金額：100万円

- ・目標金額の用途：

「手引き」原稿作成経費（原稿執筆料、イラスト作成料、編集会議会場・交通費、サーバ借料）

「手引き」PDF版の作成・公開経費（完成原稿PDF組版費、公開用ウェブサーバ借料）

「手引き」制作広報経費（「ぼうさいこくたい2024、2025」他のイベントへの出展経費・旅費）

・実施する内容：

「手引き」目次案を基に、各章節について原稿執筆者の選定、執筆依頼、執筆者から提出された原稿の校閲を経て完成した原稿を、逐次、専用ウェブサイトで公開します。2025年12月を目標として「手引き」初版を完成した後、それまでウェブサイトに公開したPDF原稿の全てをまとめて電子出版します。また、「手引き」の概要を紹介するパンフレットを作成し、専用ウェブサイトで公開します。

4. プロジェクト終了後の計画

新たなプロジェクトを立ち上げ、本プロジェクトで作成した電子版パンフレットを印刷・製本した小冊子を制作し、全国各地で開催する講習会で配布します。また、書籍として「手引き」を出版し、一般書店および講習会で販売します。

5. リターン

1) 1,000円コース 在庫数：制限なし
活動経過報告特別版をお送りします。



7) 100,000円コース 在庫数：5

活動経過報告特別版をお送りします。

お礼のメールをお送りします。お名前をウェブサイトに掲載します（任意）。

簡易製本したパンフレットを10冊、郵送します。「手引き」完成祝賀会にご招待します（任意）。



ぼうさいこくたい

2024 in 熊本

開催日

10/19^土・20^日

入場・参加
無料

一部オンラインでも
開催予定

開催場所

熊本城ホール、熊本市国際交流会館、花畑広場

復興への希望を、
熊本から全国へ
～伝えるばい熊本!
がんばるばい日本!～

主催：防災推進国民大会2024 実行委員会
(内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議)
協力：熊本県・熊本市

©2010 熊本県くまもと

写真提供

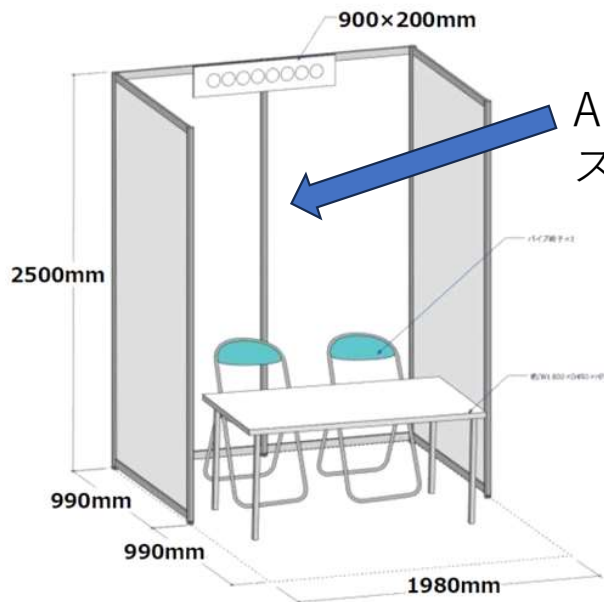
「ぼうさいこくたい」とは？

平成27(2015)年3月、「第3回国連防災世界会議」で「仙台防災枠組 2015－2030」が採択された。そこでは、自助・共助の重要性が国際的な共通認識とされ、各界各層の有識者から成る防災推進国民会議が発足した。この発足を機に、内閣府、防災推進協議会とともに、国民の更なる防災意識向上を図るべく、平成28(2016)年に第1回防災推進国民大会として東京で開催されたのが始まり。2017年以降、仙台、東京、名古屋、広島、釜石、神戸、横浜、熊本の順に開催され、2025年は新潟で開催される。主催は、内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議。

出展団体数及びブース展示

	現地出展	オンライン	合計
セッション	44	8	52
ワークショップ	30	0	30
ブース展示	100	14	114
ポスター展示	104	0	104
屋外展示（テント展示）	46	0	46
屋外展示（車両展示）	31	0	31
ステージ発表	28	0	28
出展団体オリジナル企画	3	0	3
合計	386	22	408

← 今回の当分科会の出展形式



A0ポスターが2枚貼られるスペース。説明員2名

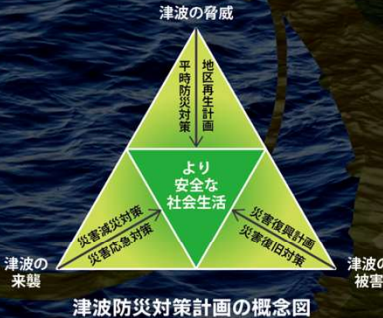


実際の出展風景

SURVIVE

TSUNAMI

私たちの海にも津波が来る
でも、私たちは生き残るのだ！



地区津波防災の主役は住民であるという考えに基づいて、地区住民が自分たちの手で、地区の実情と将来計画を考慮した地区津波防災計画を予め作っておく必要があります。その際、各種津波防災対策技術内容と計画立案に役立つ知識と情報を分かり易く示す「手引き」が必要です。

このように考えていた国際津波防災学会会員有志が津波防災対策検討分科会を2019年10月に立ち上げ、「手引き」の内容についての検討を始め、現在も継続しております。私たちのロゴは、上の津波防災対策計画の全体概念図を抽象化したものです。



国際津波防災学会
「地区住民による津波防災対策計画立案のための手引き」
制作分科会（略称：「手引き」制作分科会）

当分科会ロゴ（意匠登録申請中）
上の概念図の 脅威・来襲・被害と波型を表しています。



<https://sites.google.com/view/tsunami-guideline/>

是非、お手元のスマホに当分科会のwebページを入れてください。
有益な情報が得られます。
webページへのアクセスは左のQRコードから、入会申し込みは右のQRコードからどうぞ。



メンバー募集中！

現在取り組み中の「手引き」の概要

当分科会では、手引書制作の資金を「クラウドファンディング」により、賛同頂ける皆様からの御寄付を募集する計画です。準備が出来ましたら、ご連絡いたします。連絡先を頂ければ幸いです。

本書は、地区の皆さんが行政の支援を受けながら、地区の津波防災対策計画を立案あるいは見直す作業をお手伝いすること目的としており、種々の津波防災対策を評価・選択する際の材料を提供しています。

また本書は、多くの地区のお手伝いするために、提供している情報は網羅的になっています。このため、本書を利用する際には、自分達には今、何か必要なのかを考えながら、自分達の地区に必要な防災対策を取捨選択してください。

津波防災対策の種類

- 1) 高台居住と高台移転
- 2) 風化防止・災害伝承
- 3) 防潮堤
 - ア、津波の陸上遡上を阻止するための施設・設備
 - イ、津波の被害を低減化するための施設・設備
- 4) 津波避難警報発令伝達システム
- 5) 高台避難と避難訓練
 - 津波来襲時の地区住民の命を守るための対策
 - 津波災害発生直後の地区住民の命をつなぐための対策
- 6) 個人防衛
- 7) 復旧・復興計画
- 8) その他（地区特有の事情に対応した対策）

当分科会では、一緒に手引き制作に携わる会員を募集中です。
是非、係員にお声をかけてください！

国際津波防災学会「地区住民による津波防災対策計画立案のための手引き」制作分科会
（略称：「手引き」制作分科会）

<https://sites.google.com/view/tsunami-guideline/>



ポスターの制作

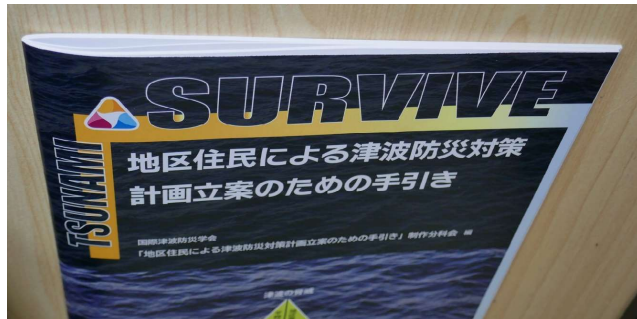
A0 2枚

つかみ本の制作

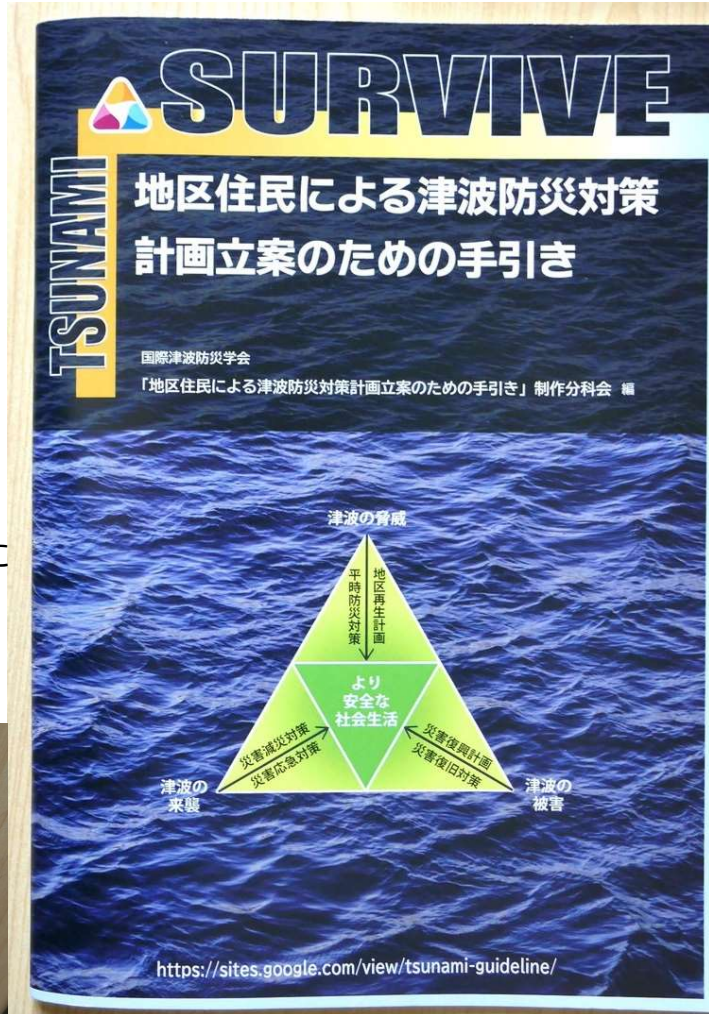
「手引き」の完成イメージが実際に体感出来る見本。
中身は、手引きの目次。
(過去項にキーワードあり)

B5版 64ページ
表紙・裏表紙はカラー
本文はモノクロ
20部製作

見本なので配布しない予定であったが、強い関心を示した来訪者約15名に配布した。



表紙



裏表紙



つかみ本の内容 2

3.1 選択方法(例1)

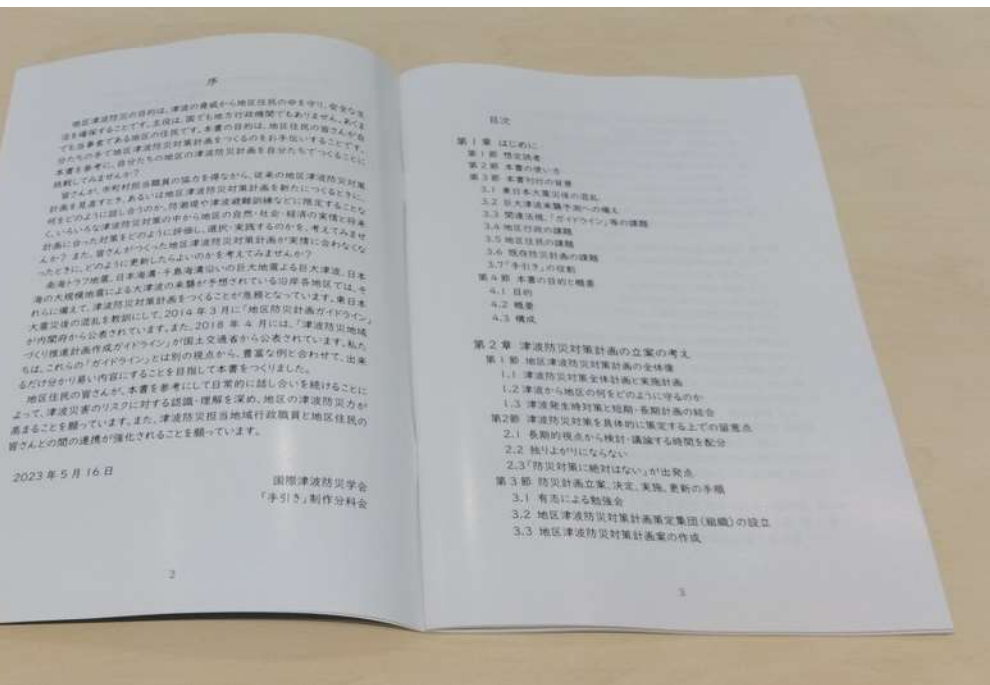
以下では、地図や地形さらには人口、産業分布等の簡単なモデル地区 A を設定し、これを「地区津波防災計画作成ワークシート①と②」上に展開している。

<モデル地区 A>

地区 A は東の海に面しており、地区の南北両端には海抜 25~30 m の断崖があり、それぞれに沿うように2つの河川が流れている。2つの断崖間の 5 km に亘って海岸線がある。海岸線から直近の高台までの距離は、おおよそ 1 km である。海沿いの2つの河川の河口付近には農地が広がっている。海岸線の中央部は商業地と住宅地で地区住民の半数以上が暮らしている。20m を超える津波が来襲する可能性がある(図 3-1 参照)。



図 3-1 地区 A の概要



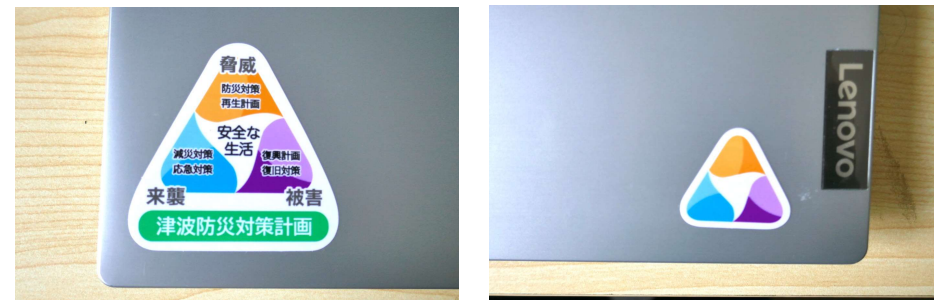
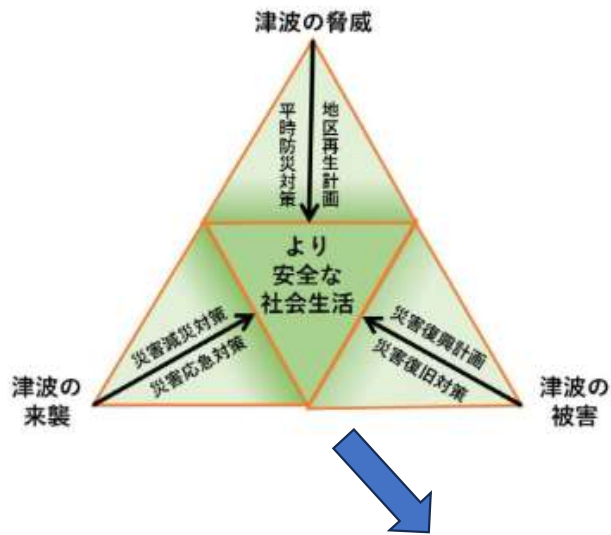
つかみ本の内容 1

2023年5月16日

国領津波防災学会
「津引き」制作分科会

ロゴ及びロゴステッカーの制作

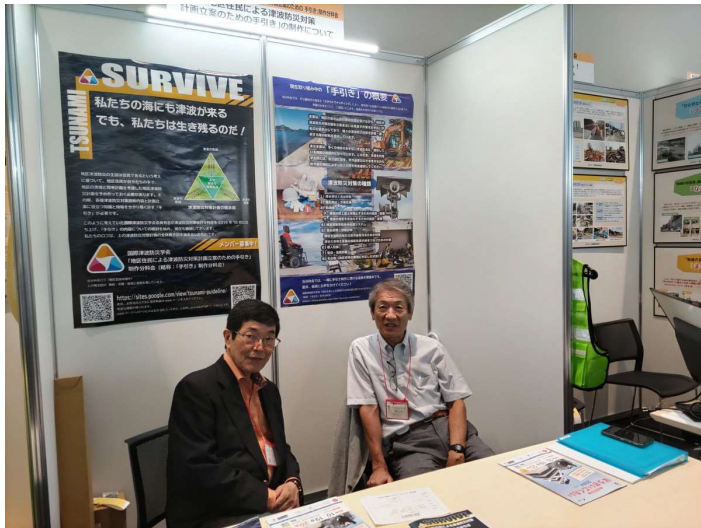
- ・分科会の活動を広く認知してもらうためには、分かり易い「シンボル」があった方が良い。
- ・分科会の考え方を表す右概念図が契機となった。
- ・会員の一人でイラストレータが本職のMさんが検討を開始。
- ・Mさんが、3歳児でも瞬時に記憶出来て、色弱者でも視認できるロゴ案を作成。
- ・商標の簡易検索では、同様の商標はない。
- ・今後ロゴ（図形）の商標登録を実施する。
- ・シール、バッジ等を製作し、会員が賛同者募集に使用したり、ぼうさいこくたい等のイベントで、来訪者に配布する。
- ・熊本では、多数の来訪者に配布した。



ノートPCに貼り付け！

ぼうさいこくたい出展のまとめ

- ・2日間で来訪者80名強と対話して、当分科会の目的と、「手引き」のイメージを理解して頂いた。
- ・目次を主体とした「つかみ本」は、「手引き」の完成イメージを理解してもらう上で有効だった。
- ・ロゴシールも多数の来訪者に持ち帰ってもらう事が出来た。
- ・去年はセッション参加であり、講師4名を含めた発表者側からの一方的な講演であったが、今年はブース展示であり、来訪者への説明や来訪者との意見交換が予想以上に出来て、充実していた。



ご清聴ありがとうございました。

